

12月20日「米国・カナダ産牛肉等への対応についての説明会」アンケート集計表

(福岡会場)

出席人数: 177 有効回答: 107 回答率: 60%

問1 あなたはどのような立場で参加しましたか。

	1 消費者団体	2 食品関連事業者(団体を含む)	3 生産者(団体を含む)	4 主婦	5 学生	6 無職	7 地方自治体職員	8 国家公務員	9 その他	* 未記入
問1	18	19	14	3	1	1	30	13	7	1
9	飼料会社・生協・百貨店2・スーパーマーケット・農林水産省モニター・団体職員									

問2 本日の説明会の開催を、どのような方法で知りましたか。

	1 厚生労働省・農林水産省のHP(報道発表資料)、配布物	2 厚生局・農政局のHP、配布物	3 農政事務所HP、配布物	4 その他の行政機関のHP、配布物	5 メールマガジン	6 新聞、雑誌等	7 所属団体からの連絡	8 その他	* 未記入
問2	41	9	15	4	3	3	36	1	2
5	厚生労働省・農林水産省								
6	朝日新聞								
8	食品安全委員会からの案内								

問3 説明についておたずねします。

問3-1 説明内容について理解できましたか。

	1 理解できた	2 おおむね理解できた	3 どちらでもない	4 あまり理解できなかった	5 理解できなかった	* 未記入
問3-1	25	68	6	4	0	4

問3-2 提示したスライド資料の内容はわかりやすかったですか^う

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問3-2	20	71	10	4	0	2

問3-3 説明者の説明内容はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問3-3	14	65	17	9	0	2

問3-4 質問に対する行政からの説明はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問3-4	11	39	30	13	4	10

問3-5 質疑の時間は十分でしたか。

	1 長かった	2 やや長かった	3 ちょうど良かった	4 やや短かった	5 短かった	* 未記入
問3-5	2	17	41	27	2	18

問3-6 会場の広さは十分でしたか。

	1 広すぎた	2 やや広すぎた	3 ちょうど良かった	4 やや狭かった	5 狭かった	* 未記入
問3-6	0	7	60	24	5	11

問3-7 説明者の声はよく聞こえましたか。

	1 聞こえた	2 おおむね聞こえた	3 あまり聞こえなかった	4 聞こえなかった	* 未記入
問3-7	45	46	6	0	10

問4 説明会を開催したことを評価しますか。

	1 評価する	2 おおむね評価する	3 どちらでもない	4 あまり評価しない	5 評価しない	* 未記入
問4	34	46	8	7	2	10

問5 日頃からご関心の高いものについて、3つまでご回答下さい。

	1 残留農薬	2 食品添加物	3 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)	4 環境からの汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ダイオキシン類等)	5 天然毒素(カビ毒等)	6 加工中に生成する汚染物質(アクリルアミド等)	7 家畜の病気(BSE、鳥インフルエンザ等)	8 有害微生物(病原性大腸菌、サルモネラ菌等)	9 たばこ	10 食品表示	11 トレーサビリティ	12 その他	* 未記入
問5	41	44	21	21	1	5	45	15	5	44	24	3	13
12	中国産食品の安全性・遺伝子組換え食品												

問6 本日の「米国・カナダ産牛肉等への対応についての説明会」の感想、その他運営などで、何かお気づきの点や感じたことがございましたらご記入下さい。

1 日本から輸出している肉等の検査は他国で承認されているのですか。 2 今後ともこのような説明会を催してください。

すでに輸入再開を決めてからの説明会というあり方に疑問を感じます。輸入再開にあたっての責任の所在も明らかにならなかったと思います。(米国・カナダまかせ?)不安は解消されませんでした。また、資料も事前に送っていただく等、考えられないでしょうか。今回、消化不良で帰らねばならない感じでも残念です。

米国に押され気味の輸入再開のような気がして本当に安全なのかまだまだ不安ではありません。表示だけはしっかりしてもらって選択する権利だけは譲りたくない気持ちです。しかし、学校給食や表示義務のない加工食品など...どうすればいいのでしょうか。この先、うらむやに米国の言いなりになってしまうと思うと、今日ここにきて現実をのぞくことができたことは良かったです。

資料など事前に配布できないか。覆られた時間の中で理解と疑問、問題点をあげるのは、特に一般消費者には難しい。これだけのことをどうやって国民に理解・納得させるのか。結果ありきで場だけ設けるのは意味がない。決定が早すぎたことが一番の問題でコメントの募集なども結果的には形式に終わっているのではないかと。また単なるQ&Aの材料にされただけの気がする。内容よりも国のやり方が納得できない。

輸入停止から輸入再開に至る経緯が今ひとつ分からない。米国産牛肉は安全なのでしょうか。

席が少し狭い。

国の決定には従うべき。買う買わないは、個人の判断。

消費者にとっては食肉の流通はなかなか分かりにくいところ。食の安全を進める上では、リスクの同等性をはかるのではなく、やはり担保として日本向け牛についての全頭検査を検討していただきたい。

米国・カナダ産牛肉の輸入にあたっての消費者への説明が納得できず(できていない)輸入再開になったのは、手続き上まずいと言わざるを得ない。せつかく、リスク評価とリスク管理部門とわかれ機能が発揮できていない。輸入再開ありきが国民に伝わった。リスクアセスメント機能としての機能が国民に不審に思われたのは大変残念である。例えば、査察結果を国民に報告して、輸入条件が十分担保されていることを報告後に輸入を再開すれば多少は国民の受けが違ってくると思う。司会者の話が長い。

答申が、輸出プログラムで遵守されることの仮定の上なので、そのためのシステムが二重三重になることを望みます。

輸入再開に際しての説明会ではなく再開前の説明会が望ましい。説明の時間が長すぎて、質問の時間が長引いたのが残念でした。

資料を頂ければ分かる事を話していたかなと思いました。質問も資料を事前に頂いていれば違ったものもあつたかなと感じられました。査察も、知識を持っている方なら農家の方や肉を扱う方を入れられると国民の安心度も違ってくるかなと思いました。

この説明会は輸入再開前に開催すべきではないでしょうか？

このような説明会の機会を多くもっていただきたい。

現在、前歯偽装事件が解明中ではありますが、手続きを経てマンションが建設され購入したものの、返せざるを得ない状況です。このことを鑑み、ご説明のとおり輸入されますが、万が一、BSEによる健康被害が発生した場合、その責任は、国か、輸入業者か、販売業者か、消費者なのか。加えてその時、我が国の畜産業及び関連産業への影響が考えられるが、その対策は財政が厳しい中、可能でしょうか。

様々な質問に対して丁寧に回答されていたと感じました。

最前列の男性の方の意見に振り回された感じがします。アメリカと日本の管理状況を混同して話されていたので、質問は2回程度に制限された方が良かったと思います。

1 説明会の以前にすでに輸入されたのは何か(社会の人々に先に了承を得るべきではないか)...査察の確認の前に輸入とは?(事由は何か) 2 米国産牛肉等、検査する等...等等とあるが等とは何か。 3 「担保する云々の担保とは何か 4 「全ロットを検査する」、「実際の検査を徹底する」とあるが本当に徹底して行う自信はあるか。また、安全・安心を提供できるか。 5 このような状況下であれば必ず人災は感染する。その時、国民の責任にしないことの確約をしてほしい。

輸入再開の手順で再開決定→今回のリスクコミュニケーション→査察・報告というようになっているが、逆にできなかったのか。安全が担保されていても国民の安心という点では、後者の順の方が良かったのではないかと。その方が丁寧なリスクコミュニケーションだと思います。

付帯事項についての対応をもっと聞きたかった。「アメリカ側に受け渡している」という感じが強く、政治問題とのすり替えを感じられた。不安になった。

答申内容をある程度知っているから分かったが、知らない方には分からなかったかも?もう少しはっきりした口調で説明をお願いします。やはり付帯事項がきちんと守られるのかどうか心配ですね。輸出プログラムは守られる前提で話されていないのでアメリカを信用できるのか心配になりました。

一国民として政治的判断であるという事は、結構あからさまに感じる。成長ホルモンとか、もっと肉骨粉以外にも、いろんな事が食の安全性に関わっているはず。この機会にきちんと洗い出して食育も含めて考え、開示していくべき。

本当のところはなかなか分からないと思った。

1 肉の若齢判断について個体差(品種間によっても差はあるはず。同一種でも差はある)が無視されていることに不満を感じる。 2 今回の説明では不安はぬぐいきれなかった。

会場の関係で16時までと言われましたが、たくさんの質問が出されるだろうと思うことから、一日借りた会場でもう少し早めに開場し、多くの時間を使うようにすべきではないのか。不安の残る説明会でした。

パワーポイントの説明はもう少し要点を絞って欲しい。

検査所での水際検査に対して充分な人員配置がされているのか不安になりました。今でも書類チェックのみ、素通り検査というイメージがあるのに、これ以上検査項目が増え、対応できるのかと思いました。国の方針と実際の生活との間に隔たりがありように感じている人は多いと思いますので、やはり情報公開とともにこのような説明会があることはとてもよかったです。ありがとうございました。

後半の説明が早口であった。

責任はアメリカ、国内は食品安全委員会の答申にあるような言い方が多すぎるのではないかと。的はずれた質問に時間がかかりすぎた。

質疑時間が短かったと考えます。リスク分析の立場で判断するならば消費者の声を反映すべきではと考えます。

厚労・農水の両省協力しての説明会ということでは評価できる。質問内容事項の取捨選択が事前に必要ではないかと思われる。

外食産業の原産地表示に対して、業界の表示への協力体制はどうなのか。外国産の食肉(牛・豚)使用が多いのではないのでしょうか？

肉屋の方の質問・意見について事実関係を含めた追跡調査をして欲しい。消費者として気になる発言がいくつかありました。

専門用語が多すぎると思う。一般消費者にはとても理解できないのでは?もっと分かりやすく説明すべきと思った。

質問者は平等に!

米国・カナダにおける飼料交差汚染防止の取組についてももう少し詳細な説明をお願いしたい。食品安全委員会答申における付帯事項①他の動物への利用禁止の必要性について米国・カナダは生産段階においてどのような対応を図ることとしているのか。監視体制は?施設等の監視は政府レベルで万全であっても生産者レベルではどうか?また、日本のリスク管理官庁としてこの点をどのように捉えているのか etc

リスク総括だが、「今度のデータによってはリスクの再評価もあり得る」とあるが、つまり現時点ではデータが足りないのではないかと!

特定人物の意見はもっと早めに止めてください。狭小の意見しか持たない人物と分かってはいたはずですが。

消費者に対する説明不足を解消する必要があると感じます。

個人的な感情での発言が多く少ししらけた部分があった。

大きな問題だけにもっと多くの地域での開催があれば良かった。

<p>司会者による回答が多かった(司会者は回答者に振って欲しい)。問題外の発言が多数あり、質疑の時間が経過した。</p>
<p>資料、説明ともう少しコンパクトにまとめるべきだったと思う。決められた質疑の時間を守らない人に対する対応をしっかりとほしかった。司会者の力量に疑問を感じた。</p>
<p>お役所仕事、政治の尻ぬぐいであってはならない。食品の安全についてのプライドをもってほしい。国民に目を向け、米国や政府に追従するものではないことを願う。</p>
<p>食品安全委員会として、国民に対する説明責任がないこと。相手を信じることを基本にした「結果ありき」の対応である。食品安全委員会は科学的根拠に基づいて判断し、国民に納得される結論を出すべきだ。</p>
<p>今後の情報の開示とともに食の安全の観点から意見交換会は定期的開催をしていただきたい。外食産業の原産地表示は義務づけを。消費者が選べる体制に。流通に対して適正に表示しているが監視体制を強化する。</p>
<p>特定個人の迷惑な発言は、何度もさせないで欲しい。</p>
<p>鹿児島から初めて参加させていただきました。食の安全について書面での通達だけでは理解しにくいところである。このような形で実施されれば分かりやすいのでこのような機会を多く作っていただきたい。</p>
<p>BSE検査の対象について、日本は全頭検査から21ヶ月齢以上にした理由は何か。21ヶ月以下を検査する必要はないのか。それとも予算を削減するために変更したのか。</p>
<p>初めに再開ありきて、時期も急ぎすぎた気がする。査察結果をもって再開を検討する方が良かったのでは。交差汚染は国際的なリスク管理の重点と考える。その点が米国、カナダへの要望だけで大丈夫なのでしょうか。特定の人に長くやべらせてはいけません。意見は意見として聞けばよい。</p>
<p>説明会は消費者向、業界向、自治体職員向などに分けて行った方がよい。各人でBSEに対する知識、認識にさがある。</p>
<p>司会者が質問、答弁を要約してくれてくれたのは助かった。専門用語、それも早口で応酬されると非常に分かりづらいので。輸出プログラムの実効性が焦点になっているが、今後のシステム検証の際のリスクコミュニケーションの機会づくりに触れられていなかった。単に査察結果の情報提供だけでは、リスクコミュニケーションにならないと考えます。</p>
<p>世界有数の食料輸入大国である我が国にとって輸入食料の水際の安全管理は重要な課題である。食のリスクに関する適切な情報交換のためには産官学と幅広い消費者とのコミュニケーションがますます重要となるので、そのためにもリスクの概念及びリスク分析の仕組みなどについて、「食育」の中であるいは学校教育の現場などでも取り入れるなど消費者教育とリスクコミュニケーションの融合を図ることが大切だと思います。</p>
<p>応答の中で行政の方が「米国产牛肉を食べるのは消費者の判断です」という言葉がありました。食べる食べないの判断は私共消費者がすることですが、輸入を許可する行政の立場にある人がいう言葉ではないと思います。無責任な言葉としか言いようがありません。実務担当者の方も本当にアメリカ産が安全と思って取り組まれているのか単に仕事として取り組まれているのか疑問を感じます。</p>
<p>時間を延長して質問にお答えいただいたことには誠意を感じました。ただ、一人一人の疑問・不安を充分受け止め解消される回答というふうには思えませんでした。</p>